

2002 ISAF 会議報告

戸張 房子

< Women's Sailing Committee >

1. ミックス・セーリング

現在オリンピックでオープン種目（49er、レーザー、トルネード）があるが女子に可能性があるのはトルネードだけで、それも殆どいないことから、ミックス・セーリング（男女混合チーム）を取り入れたらどうか、という提案が一年前に引き続き会長から出された。いつから、何のクラス、という問題はさておいて、コンセプトについてのみ討議した。

一見、女子の参加割合が増えるよい話のようであるが、裏には複雑な問題がある。2008年にはヨットのメダルが10個となるために（現在11）、種目が1つ減る。それがどのクラスかというのが大きな問題である。アジアとしてはダブルハンド（470級）を男子・女子の2種目で確保したいが、いつも標的になるのがこのクラスであり、1種目に減らす口実を作らせないために、日本は反対に回った。

投票の結果、賛成7、反対5（ギリシャ、キプロス、イタリア、イスラエル、日本）で可決されたが、Women's Committeeの次のEvent Committeeで否決された。

今後もこのサブミッションが出てくることが充分考えられる。

2. 女性とスポーツ世界会議（World Conference of Women and Sport）

IOC、ユネスコなども後援している会議で、スポーツを通じて女性の地位の向上を促進を考えるために1994年から始まった。2000年3月には大阪で「女性とスポーツ アジア会議」が行われ、私も出席したが、2006年は熊本で世界会議が開催される予定であり、ISAF女子代表で出席することとなった。

3. オリンピック・クラスの世界選手権レースフォーマット

オリンピック予選に使用されている世界選手権はオリンピックと同じレースフォーマットとし、エントリーは各国2艇、最大でも6艇までにする。

4. マッチ・レース

女子マッチ・レース世界選手権についての報告。（2002年度はスペイン・Calpe）

5. Women's Sailing Booklet 小冊子を作成して女子セーリングのプロモーションに使用する。

6. ISAF各委員会への女子委員派遣

2003年より、International Class Committeeに私が女子委員として出席することとなった。

7. 各大陸選手権報告

2002年アジア大会（釜山）の報告。各国のテントを訪問し、女子役員や選手にインタビューした内容を話した。

文化・伝統・宗教的背景により女性の選手や役員が少ない。選手は20歳前後にやめてしまう傾向が強い。経済的理由から船や儀装品が不足している。政府の援助が無い限り海外遠征ができない（アジア大会なら各国オリンピック委員会から経費が出る）

8. その他

ウィンドサーフィン委員会

2008年オリンピックに使用するウィンドサーフィンのクラスを選ぶ、テスト・イベントを2003年に開催する。ウィンドサーフィン・コミッティでテストをする男子5名、女子5名の選手（ワールドのトップクラス）を選んだが、その中に見城と今井が入っており、同じ国から各1名は他にはないことである。委員長のボツツァー氏（イスラエル）は毎年オリンピック・ウィークのジュリーとして来ていることから好意的な配慮であり、「二人に絶対に行くように伝えて欲しい」との伝言を頼まれた。

以 上